

身近な自然観察「干潟の生きもの」
～汽水域の生きものを観察しよう～
観察参考メモ

【干潟の生きものの観察】

多摩川は、山梨県・東京都・神奈川県を流れて東京湾へ注ぐ一級河川。下流は東京都と神奈川県の間となっており、河口には東京湾最大の「河口干潟」があります。干潟は、沿岸域における水質浄化の場であるとともに、干潟でしか見られない多くの生きものを育む場でもあります。

身近な干潟での生きものの観察についてご紹介します。

【自然観察のルール】

- 干潟の観察は干潮の時にいきます。
- 自分の判断で生きものに触らないようにしましょう。
- 観察が終わったら生きものは干潟に返します。

【自然観察の注意点】

- 干潟の水際まで行かないようにしましょう。
- クラゲは水辺の生きもの専門家と一緒にいる時に観察しましょう。
- 今回は触感を知っていただくために素手で触っていますが、クラゲを見つけたときは素手で触らないでください。
- クラゲを観察するときは軍手や手袋を使いましょう。
- 生きものの色だけで安全かどうかを判断しないようにしましょう。

【自然観察のポイント】

- 干潟の生きものは人が来ると隠れてしまいます。物の影に潜んでいるかもしれないのでガサガサしてみましょ。
- カニは腹節のかたちでオスとメスを見分けることができます。
- 干潟を掘ってドロの色を比べてみましょ。
- まず大きな生きものの形を覚えて小さいときはどんなのか考えましょ。
- 干潟には「汚い」と言われるものがあるが、それは言い換えれば「栄養」。

【干潟の観察に便利な図鑑など】

・『干潟ベントスフィールド図鑑（改訂3版）』日本国際湿地保全連合発行

著者：鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典

日本全国（南西諸島を除く）の干潟で見られる代表的なベントス（底生生物）約 500 種を掲載！写真の他、解説では類似種との識別や同定のポイントを記しています。フィールドで使いやすいポケットサイズ、「干潟生物市民調査の方法」も掲載しています。干潟を観察する際のまさにバイブルともいえる図鑑。

・『干潟生物観察図鑑～干潟に潜む生き物の生態と見つけ方がわかる～』誠文堂新光社

著者：風呂田利夫・多留聖典・中村武弘（写真）

干潟の生きものの様々な観察方法をイラストや写真を使って紹介。干潟で見ることができる生きものを詳細に紹介するだけでなく、見られる可能性のある生き物も分類ごとに図鑑形式で紹介しています。著者のひとり、風呂田利夫先生は、佐川麻理子さんの師匠だそうです。

・『東京湾の魚類』平凡社

著者：河野 博(監修)・加納光樹(編集)・横尾俊博(編集)

東京湾に棲息する生きものたちを、東京海洋大学魚類研究所が 20 年にわたって蓄積した情報によって紹介。多様な海洋環境のなかで、多種類の魚を育み、「仔稚魚のゆりかご」ともなっている東京湾の現状を理解するのに最適です。

・『干潟の自然史～砂と泥に生きる動物たち～』京都大学学術出版会

著者：和田恵次

様々な生物が複雑な生態系を織りなす干潟は、水質の浄化や水産資源の維持などの面で重要であるとともに、知的好奇心を刺激する計り知れない魅力があります。日本の海岸から急速に失われつつある干潟の大切さと楽しさを伝える 1 冊。

主催：一般財団法人森永エンゼル財団

制作：NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

監修：NPO 法人多摩川干潟ネットワーク理事長 佐川麻理子

2023.9.30